

稲作情報 No.19

令和元年9月4日

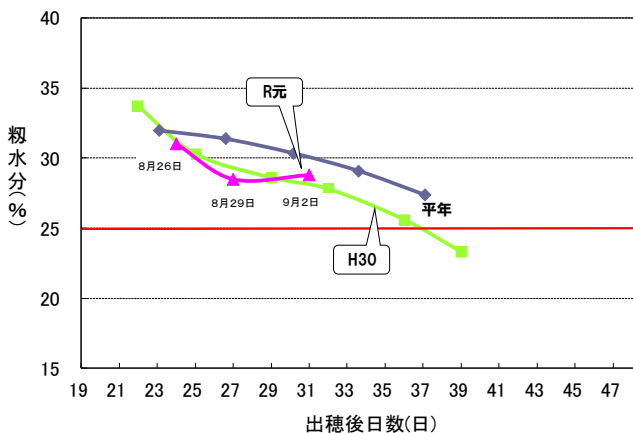
〔9月2日水稻登熟状況・大麦圃場準備・そば、大豆防除〕

水田農業レベルアップ委員会技術普及部会（農業試験場、福井米戦略課、組合員トータルサポートセンター、JA経済連、主要農作物振興協会）

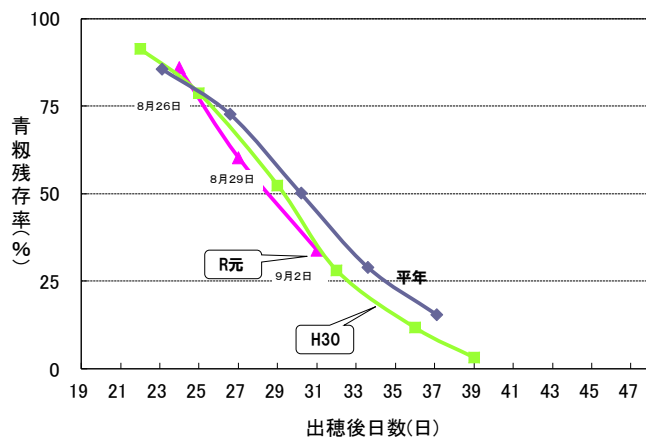
[http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/inasaku.html](http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/inasaku/2019inasaku.html)

- ・コシヒカリでは胴割粒が見られ始めてきています。籾水分を測定して適期収穫に努めましょう。
- ・大麦を播種する圃場では、稲刈りが終わりましたので、排水溝を設置しましょう。
- ・そば、大豆圃場でハスモンヨトウ等の害虫が多い場合は防除を行いましょう。

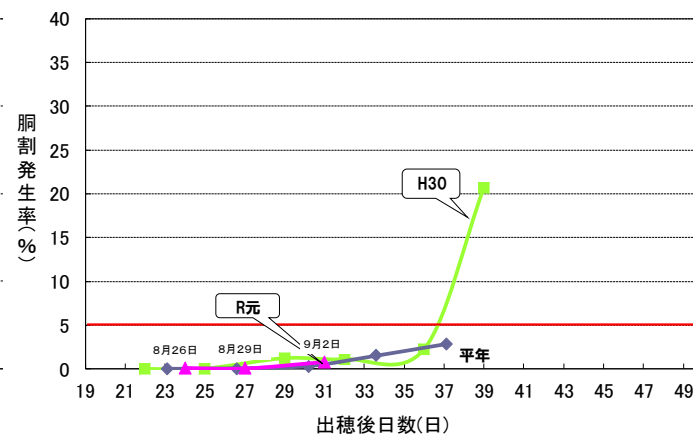
【農試コシヒカリの籾水分】



【農試コシヒカリの青籾残存率】



【農試コシヒカリの胴割粒率】



品種	出穂期	積算温度に基づく収穫予想日
コシヒカリ 5月20日植	8月2日	9月7日
あきさかり 5月2日植	8月1日	9月8日

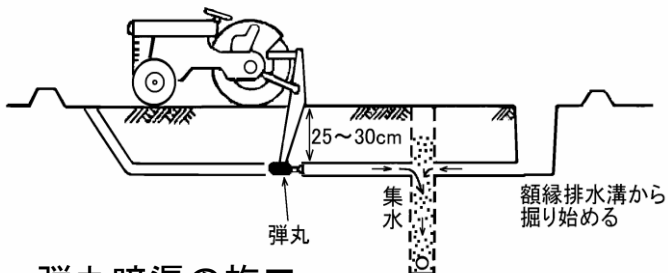
作業	作業の注意点
圃場準備(排水対策)	<ul style="list-style-type: none"> ・排水口（水尻落とし口）は水稻の水管理用で高いことが多い。必ず額縁排水溝の底面より下になるよう掘り下げ、スムーズに水が流れ落ちるようにする。 ・額縁(周囲)排水溝を水稻刈取後できるだけ早く、25～30cmの深さの溝を設置し、圃場の乾燥に努める。 ・サブソイラ補助暗渠の施工は、額縁排水溝設置後すぐに行う。深さ25～30cmで額縁排水溝と連結し、本暗渠と直交に施工する。補助暗渠の施工は、大麦作だけでなく、後作の大豆作やそば作の排水対策にも有効である。 ・サブソイラ施工間隔は通常2～4m。排水が悪い圃場は1.5～2mを目安とする。 ・サブソイラ施工時は額縁排水溝底から引くように施工する。本暗渠と直行方向だけでなく、平行方向にも補助暗渠を設置すると一層排水効果が高まる。また大豆作においてかん水能率も高まる。 ・圃場内排水溝の深さは25～30cm、間隔は3～5m（畝幅）とする。圃場の排水性、播種作業、後作の大豆等の播種作業幅も勘案して施工間隔を決める。 ・暗渠がない場合やサブソイラの施工ができない場合は明渠の数を多くし排水に努める。 ・枕地の畝を作った場合には、畝を切って圃場内部から直接排水口に繋がる排水溝を必ず追加する。



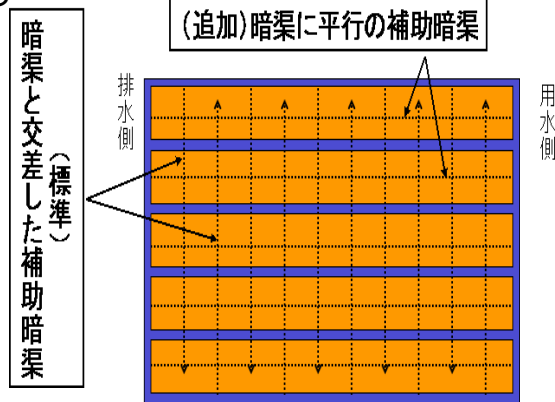
・トレンチャーによる額縁排水溝の設置



・排水口が高い場合は畦畔を切り排水する



・弾丸暗渠の施工



大豆

作業	作業の注意点	
病害虫防除	病害虫	防除
	ハスモンヨトウ	白くすけて見える白変葉や若齢幼虫が見られたら直ちに防除を行う。
	フタスジヒメハムシ	8月下旬に第2世代成虫の防除を行っていない圃場は、9月上旬までに防除を行う。薬剤は莢に十分付着するように散布する。
	カメムシ類	圃場への侵入が多くなる子実肥大終期(9月中旬頃)に防除を行う。薬剤は莢に十分付着するように散布する。 〔 9月中旬(発生盛期)に100個体当たり4.0頭以上の場合には防除する。 〕
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤は最寄りのJAで取扱いの薬剤を御確認ください。 	

ふくいアグリネット「稲作情報システム」のご案内

ふくいアグリネット <http://www.agri-net.pref.fukui.lg.jp/>
 稲作情報システム http://www.agri-et.pref.fukui.lg.jp/gizyutsu/ine_sys/index.html

①ふくいアグリネット・トップ→ 農業技術情報 → 稲作情報システム

②年度、情報(生育状況、収量・品質)、地域、地点を選択

③生育状況、収量、品質のグラフを表示

福井県農業情報ポータルサイト「ふくいアグリネット」において、県内各地(約40地点)の水稻の生育状況や収量・品質の調査データを「稲作情報システム」で掲載しています。現在の生育状況はもちろん、過去のデータ(生育、収量・品質)を調べることができます。ぜひご利用ください。

9月4日5時 福井県の週間天気予報

【天気予報】

日付	4 水	5 木	6 金	7 土	8 日	9 月	10 火	
福井県	曇時々雨 	曇時々晴 	曇時々晴 	曇時々晴 	曇 	曇 	曇 	
降水確率(%)	~60/50/20	20/10/20/20	30	20	40	40	40	
信頼度	/	/	A	A	C	C	C	
福井	最高(°C)	30	32	34 (32~35)	34 (32~36)	34 (32~35)	31 (29~34)	30 (28~32)
	最低(°C)	/	24	25 (24~26)	25 (24~27)	25 (23~26)	24 (22~26)	23 (21~25)

【メールマガジン e農メール】

気象庁 気象統計情報(各種観測データ)
<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>

e農メールの登録については、こちらをご覧ください。
http://www.agri-net.pref.fukui.lg.jp/a_mail.html



携帯電話ではQRコードで簡単アクセス

秋の田起こしによる おいしい米づくり を推進しています

Point

- 1 気温が高い10月中に実施**
 土中にすき込み、稲わらの腐熟を促進
- 2 田起こしはゆっくり、深さ15cmを確保**
 速度は歩く速さの1/4が目安 今ある機械で実践可能
- 3 有機物・ケイ酸の補給**
 稲わらの腐熟により有機物やケイ酸が増え、地力UP

深く起こすと根の張りが悪くなり、反収が多く、品質の良い米ができるよ。



収穫時の根の状態

耕うんの深さ
9cm



耕うんの深さ
15cm



反収アップで
収入増!!

反収

約530kg



約580kg

胴割発生減で
品質向上!!

胴割発生率

約13%



約1%

10月中の秋起こしを完了できるよう計画的に作業を進めましょう。

お問い合わせは福井県嶺南振興局農業経営支援部まで